

### (3) 緑花関連機関・緑花グループによる取り組み

淡路地域では、緑花関連機関や緑花グループが多数存在している点も大きな特徴です。特に、花博を契機にして、多くの緑花関連機関や緑花グループが生まれてきました。各緑花関連機関・グループは、それぞれの設立の目的に則して、緑花施設の維持管理、花や緑による観光促進、イベントの開催、人材育成、情報発信などの取り組みを行い、淡路の花いっぱいのイメージづくりに成果を上げています。

しかし、緑花関連機関にとっては、広大な緑花施設の維持管理費の問題や、地元の緑花グループ等との関わりが薄いなどの利活用の問題もあります。また、緑花グループにとっては、人手不足や、資金不足など活動の継続について問題を抱えています。

#### ■緑花関連機関の取り組み状況

緑花関連機関	花や緑に関する取り組み内容
県立淡路景観園芸学校  「景観園芸」という新しい学際分野による人材育成、生涯学習、調査研究、情報発信、産業振興を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○景観園芸専門研修</li> <li>○園芸療法コース</li> <li>○まちづくりガーデナーコース</li> <li>○AGN（景観園芸学校コース受講修了生による組織）の編成と地域づくりの推進</li> <li>○国際園芸フォーラムの開催 等</li> </ul>
(財)淡路花博記念事業協会  花博の後、理念を継承し、淡路での花のイメージづくり、まちづくりの支援、施設の維持管理等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報発信               <ul style="list-style-type: none"> <li>・HP、花だより</li> </ul> </li> <li>○イベント等開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・あわじ1000万本菜の花の装い</li> <li>・花祭り（春・秋）、冬咲きチューリップショー</li> </ul> </li> <li>○景観園芸シンポジウムの開催</li> <li>○あわじ花タクシーとあわじ花バス運行</li> <li>○調査研究、人材派遣</li> <li>○施設等の管理運営               <ul style="list-style-type: none"> <li>・花さじき、夢舞台温室、百段苑、県立淡路島公園、ハイウェイオアシス、佐野運動公園</li> </ul> </li> <li>○あわじ1000万本菜の花の装い実行本部事務局               <ul style="list-style-type: none"> <li>・あわじ1000万本菜の花の装い</li> </ul> </li> <li>○あわじ花へんろ推進協議会事務局               <ul style="list-style-type: none"> <li>・あわじ花へんろ事業（花の礼所の維持管理等）</li> <li>・あわじ花タクシー、あわじ花バスの運行</li> </ul> </li> </ul>

<p>花と緑のまちづくり研究所 （（社）兵庫みどり公社内）</p> <p>兵庫県が進める「花と緑あふれる美しい県土づくり」をめざして、県内全域を対象に花と緑のまちづくり支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○花いっぱい運動地域ワークショップ</li> <li>○ひょうごまちなみガーデンショー</li> <li>○花いっぱい運動推進員募集</li> <li>○情報発信「花とみどりのまちづくりだより」</li> </ul>
<p>淡路島観光連盟 各市町の観光協会</p> <p>淡路の観光促進、情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イベント情報等の情報発信（ポスター、HP、情報紙への掲載）</li> <li>○イベントの開催（各市町観光協会）</li> <li>○あわじ花へんろ事業（情報発信等）</li> </ul>
<p>NPOあわじ緑花協会</p> <p>花づくり講習会の開催、技術的相談業務、コンクールの開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全島一斉清掃の企画運営</li> <li>○あわじ花と緑のコンクールの運営</li> <li>○花壇づくりコンテスト</li> <li>○緑花グループ支援のための講習会（緑花セミナー）、植栽相談会・出前園芸</li> <li>○安価な花苗の販売、花苗や情報交換の場づくり</li> <li>○沿道花壇の管理、ハマボウの管理</li> <li>○女子駅伝コースのコスモス・ノジギク植栽</li> </ul>

■緑花グループの取り組み状況

緑花グループ	花や緑に関する取り組み内容
<p>NPOアルファグリーンネット</p> <p>県立淡路景観園芸学校の「花と緑のまちづくりガーデナーコース」を受講修了生が、横の連携をとるために結成した組織（平成12年～）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全県オープンガーデン開催支援</li> <li>○自然観察会企画</li> <li>○園芸療法の実施</li> <li>○園芸体験教室開催</li> <li>○外部への講師派遣（寄せ植え、アレンジメント等）</li> <li>○県内のイベント実行委員会、JTF審査員への参加</li> <li>○淡路地域内で開催されるフォーラム・イベント等の情報発信（HP）</li> </ul>
<p>あわじオープンガーデン実行委員会</p> <p>個人宅・企業・宿泊施設・寺社・公園などへのオープンガーデン</p>	<p>○あわじオープンガーデン（平成17年現在、4回開催）約40件を越す参加者があり、毎年増えている。淡路を発信するよい機会になっている。行政との役割分担のもと、自主運営が進んでいる良い事例である。</p>
<p>あわじ菜の花エコプロジェクト推進会議</p> <p>あわじ菜の花エコプロジェクトを推進するため、ビジョンや婦人会などの関係団体と行政とが構成した組織。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エコプロジェクトを推進するための連絡調整や先地の調査研究などを行っている</li> <li>○エコプロジェクトパンフレットの作成・配布及び菜の花フォーラム等の開催による啓発活動</li> </ul>
<p>地域の緑花グループ</p> <p>全島で約700グループある。花博を契機に活動グループ数が増加。1グループの構成人数は3名くらいから30名くらいまで。地域ごとに中核的な役割を担う組織（緑花団体）もある。緑花団体は、構成グループに安価な花苗の販売、講習会企画、行政とのつなぎ役を果たしている。</p>	<p>（地域に根ざした緑花グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主に公共のまちかどの花壇、道路沿いの花壇緑花を実施</li> <li>○子どもと一緒に取り組む、高齢者の方との取り組みなどにも発展</li> <li>○全般的に、高齢化が進んでおり人手不足、資金不足により活動の継続が危ういグループもある</li> </ul> <p>（地域で中核的な役割を担う組織（緑花団体））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○会の中で人材育成、セミナー、情報発信も実施</li> <li>○花苗づくり、販売などを行っているグループもある</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>■淡路地域における緑花グループの現状・声</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢化、会員の減少、リーダーへ負担が集中する</li> <li>○種、苗は行政からの現物支給が多く、それが途絶えると活動が止まってしまう。ただし、グループで苗を育てて売って資金を獲得している例もある。</li> <li>○維持管理のためのお金・人不足（特に夏場の「水やり」）</li> <li>○技術・知識の問題（専門家がいない）</li> <li>○活動場所の調整が困難</li> </ul> </div>

## 2 今後、淡路地域で緑花を進める際の課題

淡路地域では花回廊計画に基づいて緑花の様々な取り組みが行われ、一定の成果を上げる一方で、今後の課題が明らかになるなど、淡路の緑花がセカンドステージに入りつつあると言えます。

社会潮流やこれまでの取り組みの到達状況を踏まえ、今後、淡路で緑花を進めるにあたっての課題を整理すると、次の2点になります。

### (1) あわじ花回廊計画の取り組み

- 主に行政が取り組んだ計画だが、淡路＝花のイメージ定着を進め、淡路での緑花活動の起爆剤になった
- ハード面は充実、しかし大規模な花壇は維持管理費の負担が大きい
- 緑花の質について淡路らしさに弱い・画一的という指摘がある。
- ソフト的取り組みは、イベントの開催などを始め、緑花資材の配布等の直接支援が主になっている。

(1) 緑花活動を継続・発展させるためのしくみをつくること

### (2) 地域ビジョンによる取り組み

- 行政主導型の取り組みではなく、参画と協働で作成され推進されている。
- 花回廊計画と相乗効果的に緑花の整備の促進と緑花グループの活動を活発化してきた。

(2) 「淡路らしい緑花」を探求すること

### (3) 緑花関連機関・緑花グループによる取り組み

- 各緑花関連機関は、淡路＝花のイメージの定着のための取り組みとして施設の緑花を進めている。維持管理費が大きい。
- 緑花の質について淡路らしさに弱い・画一的という指摘がある。
- 緑花グループは、数は増えているが、人・資金面等から緑花活動の継続性に問題をかかえている。

花や緑を巡る社会潮流

- ① みどりを守り育てる制度の充実
- ② 循環型社会の形成、生物多様性の保全が緊急課題に
- ③ 新しい「公」の領域の出現など社会システムの大きな変化
- ④ 人口減少社会の到来とゆとりあるライフスタイルの実現

## (1) 緑花活動を継続・発展させるためのしくみをつくること

<緑花のハード整備が充実し、緑花関連機関や住民による緑花活動が活発になってきた>

淡路地域では、花回廊計画に基づきながら、主に行政が中心となって道路緑花や拠点緑花等のハード整備が進められてきました。そして、計画中期頃の「淡路花博」の開催を契機に、緑花関連機関や地域の緑花グループによる緑花活動が活発になりました。

<しかし、花壇の維持管理や次の活動への継続性に問題が生じてきている>

しかし、花回廊計画の推進の中で、整備されてきた拠点緑花や道路緑花については、いずれも箇所数・面積ともに膨大であり、また一年草を中心とした緑花は手のかかる管理が欠かせないため、今後、維持管理をどのようにしていくかという課題があります。

また、緑花グループによる活動についても、行政からの支援に支えられて活動を続けてきたグループも多く、支援が途絶えてしまうと活動が途絶えてしまう可能性があります。

<今後は、新たな役割分担の考え方のもと、多様な主体が連携するしくみが必要>

緑花活動を持続させていくためには、地域の多様な主体（緑花グループ、緑花関連機関、行政など）が連携しながら、持っているものを出し合い、つなげながら進めていく「新たなしくみ」が求められています。

現在、地域づくりの主体は地域の住民へと移ってきており、各主体の役割も10年前とは大きく変わりつつあります。特に行政の役割については、これまでの花苗の現物支給中心の支援ではなく、物的・資金的に限りがある中で、今後、住民の活動の自立を促す方向への支援の切り替えが必要です。このように、それぞれの役割を再構築することが必要です。

## (2) 「淡路らしい緑花」を探求すること

<「淡路といえば花」と一部では言われているが・・・>

これまで花回廊計画等の推進により、道路緑花や拠点緑花、まちかど緑花、花回廊ルートの指定などを行うことで、全国に向けて「淡路といえば花」というイメージの定着が図られてきました。淡路花博の開催、「花さじき」や「夢舞台」などの拠点緑花の整備、緑花グループによるまちかど花壇づくりなどにより、花のイメージの定着に一定の成果を上げてきたと言えます。

<しかし、緑花の質が画一的で、継続性にも問題がある>

しかし、一年草を用いた緑花は、淡路でなくても全国でどこでも見ることができる画一的なデザインになってしまい、「淡路地域の風土資産」の調査において島外の人から淡路の魅力としてあげられた「豊かで淡路らしい自然」とズレが生じています。また、一年草の花だけを用いることが維持管理や活動の継続を困難にしている原因にもなっています。

こうした反省から、特に緑花グループの間では、緑を取り込みながら花壇づくりを進めたり、瓦などの地域の資源を活かした花壇づくりなど工夫を凝らすことにより淡路らしい緑花を探求した活動を行っている例もみられます。

<今後は、「淡路らしい緑花」の探求と共有化が必要>

都市近郊の「島」である淡路では、温暖な気候の中で育つ「花」や「緑」に代表される「豊かな自然」や「身近で触れられる自然」が地域の資源としての大きな要素になっています。また、花や緑はまちづくりに適切な資源であり、その波及効果は人づくりや環境づくり、観光などの地域産業の活性化にも及んでいます。

今後は、これらの資源を活かしながら、淡路地域においての緑花とは何を指すのかについてよく考え、目標像を共有し、淡路らしさにつながるような緑花を行っていくことが必要です。

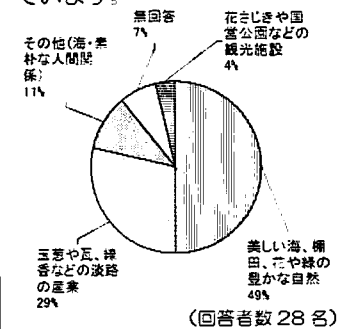
### ■淡路地域の風土資産調査(平成15年度)

島内外の人々にとって「魅力ある淡路の風土資産」の検証結果は以下のとおり。

	島内	島外(県外)
1	淡路の自然	淡路の自然
2	美しき淡路	美しき淡路
3	園芸の島	御食国
4	癒しの地	癒しの地
5	柿の木の数々	柿の木の数々
6	御食国	園芸の島
7	ジャージー	ジャージー
8	大震災の記憶	柿の生まう島
9	柿の生まう島	空り上りの島
10	歴史深い産業	歴史深い産業

### ■淡路創造大学でのアンケート調査(平成17年度)

「淡路らしさのイメージ」については?美しい海等の豊かな自然、タマネギなどが上げられています。



■「淡路らしい緑花」って？（ワークショップより）

近年、淡路では「公園島」としてのイメージで、淡路＝「花の島」の定着を図ってきましたが、一年草の花による花壇が多く、維持管理も大変で、淡路らしくないのではないか、という指摘があります。

そこで、ワークショップの中で、気候風土や歴史から「淡路らしい風景」を掘り起こし、「淡路らしい緑花」について検討した結果、以下のような内容が出されました。

<淡路らしい風景って？>

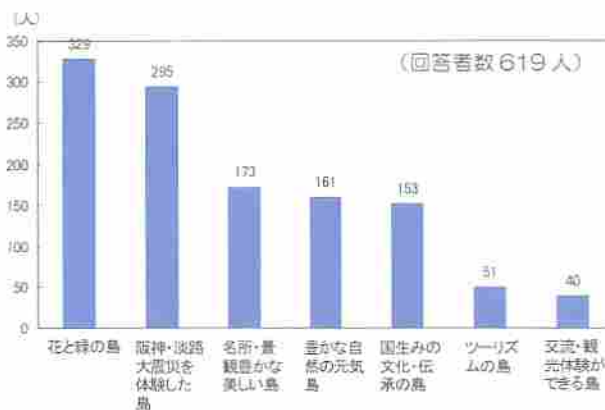
- 1 四方を海に囲まれた明確な海峡と「島」という立地
- 2 平地の少ない急峻な地形とそこに成立する多様な植生
- 3 温暖な気候と貴重な水
- 4 都市近郊にあることから、近郊農業の発展

<淡路らしい緑花とは？>

- 淡路の複雑で多様な地形を活かしてメリハリのきいた緑花活動が必要では？
- 地域の資源（瓦や淡路に自生する植物）を大切にした緑花活動が淡路らしいのではないか？
- 訪れた人に和んでもらえるような、淡路を感じてもらえるような緑花活動にすべきでは？
- 無理しない、参加している人が楽しんでやれる緑花活動では？
- 人づくりや自然環境の保全にもつながる緑花活動では？

■島外の人々の淡路島のイメージは？（洲本温泉観光旅館連盟・女将の会アンケートより）

「花の島あわじ・ふれあいデー（平成 17 年 12 月 1 日）」で JR 大阪駅にて淡路島のイメージを問うアンケートを実施。619 人の回答得た結果、淡路島のイメージは「花と緑の島」が最も多いという結果がでました。



■花回廊計画等の主体別の取り組み課題

**行政における取り組み課題**

- 【道路緑花、拠点緑花（公共施設）、周遊ルート】
- 規模の大きさ・箇所数の多さによる緑花の維持管理費用負担増への対応、花壇のメリハリをつくる
  - 緑花の質の改善
- 【活動支援】
- 持続的観点からの支援のあり方の見直し

**ソフト事業に関わる課題**

- 【推進体制】
- 取り組む主体が自立し、連携しながら進めていくためのしくみづくりが必要
  - 市町合併による組織の再編への対応。
- 【普及啓発・人づくり・情報発信・PR等】
- 全島的な統一テーマによる取り組みと積極的な情報発信
  - 緑花グループ間の積極的な情報交換と双方向のつながり構築
  - コンテスト、フォーラム、イベントなどへの参加者の固定化、減少傾向への対応

**関連機関の取り組み課題**

- 【拠点緑花】
- 規模の大きさ・箇所数の多さによる緑花の維持管理費用負担増への対応
  - 緑花の質の改善、かつ民間の緑花をリードするデザイン性の高い緑花の導入
  - 地域の施設でありながら地域住民・緑花グループとの関わりが薄い。地域での活用促進が課題

**緑花グループの取り組み課題**

- 【道路緑花（沿道空間）、拠点緑花（花風景スポット施設、まちかど緑花）】
- 継続的な緑花の取り組みのための人手不足の解消、経済的自立。そのための技術の向上、組織体制づくり
  - 緑花の質の改善



## 第2章 淡路ではどんな緑花を目指すのか？

### 1 プランの目標—人と自然の豊かな調和をめざす環境立島「公園島淡路」—

淡路における緑花の現状と課題をふまえ、次の10年でどのような姿を目指すのでしょうか？

「あわじ花回廊計画」では、計画の最終目標の姿として「花の公園島」を掲げ、そのための基本理念として、『「花」を通じた新しいライフスタイルの創造』を掲げてきました。また、淡路の緑花活動の大きな契機になった淡路花博の理念は「人と自然のコミュニケーション」であり、緑豊かな地球環境の保全と創造、安全快適な美しい街づくり、心豊かな地域社会づくり、園芸・造園産業の発展と振興などが開催意義でした。

これらの考え方は、「花や緑」が単なる花や緑の植栽活動だけを指すものではなく、豊かなライフスタイルの創造や人と自然環境の調和などを実現していくための象徴であるという考え方であり、淡路地域の全体の方向を示す地域ビジョンが掲げる『人と自然の豊かな調和をめざす環境立島「公園島淡路」』にも含まれる考え方と言えます。

したがって、本プランにおいては、「あわじ花回廊計画」や「淡路花博」の理念を継承し、「地域ビジョン」が掲げる目標をプランの目標の姿として取り組みを進めていきます

#### <目標の姿>

人と自然の豊かな調和をめざす環境立島「公園島淡路」

具体的には、下記のような目標の姿の実現を図っていきます。

#### ① 花いっぱい美しい島

- ・豊かな海や山の自然に加え、先人の生業が築き上げた棚田などの美しい景観が大切にされている姿
- ・淡路らしい景観の保全・継承、まちなみ緑花をはじめ植樹・植栽の促進などにより、美しい地域景観の形成が促進されている姿
- ・花を愛することは自然を大切にしていくことにつながり、花できれいにすることで、よりよい環境づくりが行われている姿
- ・きれいな水辺、ごみのない島、循環性の向上が確立されている姿



美しい棚田風景（淡路市）



資源循環の菜の花エコプロジェクト

## ② 文化が広がる島

- ・文化には、その地域の風土にあった生活様式や暮らしぶりなども含む意味があります。
- ・地域で培われた文化を守り育て、花（自然）とともに生きる文化が内外に広がっている姿



震野松原と淡路瓦（南あわじ市）

## ③ 人を育む島

- ・花は、震災後、ガレキの中からも咲いたような強さも持っています。
- ・花にふれることで、潜在的に持っている体力的なたくましさや精神的なたくましさを発揮できる子どもが育っている姿
- ・花（自然）にふれあう中で、知識偏重ではなく、個性輝くたくましい、知恵ある子どもたちが育っている姿



子どもたちと一緒に花壇づくり活動



子どもたちが自然の中で遊ぶ（プレーパーク）

#### ④ 安全で安心な島

- ・花や緑を使って、高齢者や子どもたちが安全で安心して暮らせるまちづくりが行われている姿
- ・健康福祉施設、学校などの施設における花壇づくりなどで高齢者などが活動に参加し、生き生きしている姿
- ・日頃の地域管理活動から災害に強い島、地域で防災力が高い島づくりを行う姿



老人介護施設の花壇見学



老人大学での花づくり

#### ⑤ 魅力ある産業を興す島

- ・花の文化（地域の素材）で産業を興して、歴史と伝統文化、伝統技術に培われた個性豊かな地域産業が息つき、活みなぎっている姿
- ・緑花活動を通じて、観光産業が活性化されている姿



カーネーションなど花卉産業の進行



あわじ花さじき（淡路市）

## ⑥ 心あふれる交流の島

- ・ 地域住民の思いやりの心、温かく受け入れる心を養い、人と人、人と自然、淡路島と国内外など、多様な交流が行われている姿。
- ・ 来島者は異文化などを運んでくれるものであり、訪れる人々を温かく迎え、もてなすことで、活気ある島づくりが進んでいる姿



いもほりで世代間交流



緑花グループの島祭りへの参加

## 2 目標を実現するためどのように取り組みを進めるか？

淡路地域では、これまで花回廊計画等を進めることで緑花拠点施設等の充実、緑花グループ等による取り組みの増加など一定の成果を残しつつあります。一方で、緑花のデザインが画一的で淡路らしさに弱いなど、これまでの成果をどのように継続・発展させていくかといった、セカンドステージに入った淡路地域ならではの課題があります。

このような状況の中で、課題を解決し、目標の姿を実現していくためにはどのように取り組みを進めればよいのでしょうか？

### <プランの基本方針>

#### つなげよう淡路の緑花 ～持続可能な緑花を目指して～

<島が持つ1つになろうとする力＝「つながり」で淡路らしい・継続した緑花を行う>

淡路地域は「島」という地理的特性上、他の地域とは異なり、“淡路全島で1つになろう”という力を持っています。また、時代は環境に配慮した物理的精神的にもゆとりが求められる社会になり、「循環型の社会の構築」、「ユニバーサル社会の実現」、「参画と協働」、という言葉で代表されるように“間にある障壁”を無くした社会の実現が望まれています。

あわじ総合緑花プランでは、この地域で1つになろうとする力を“つながり”と表し、緑花活動に重要な要素となる「人」「自然」「もの・わざ」のつながりを意識することで、一人一人の力は小さくとも、全住民で共有することによって、淡路らしい持続的な緑花を行えると考えます。

<緑花活動の実践がさらにまちづくりへとつながっていく>

さらに、緑花活動のきっかけは、「緑や花が好き」「まちを美しくしたい」「旅行者や訪問者を花や緑でもてなしたい」など様々ありますが、緑花活動を実践していくなかで、ゴミや環境の問題、教育の問題など様々な事が発見され、考えさせられるでしょう。こうして緑花活動を通じて様々な問題を考えることは自ずと淡路の将来の姿をどうするかというまちづくりに結びつき、さらにはユニバーサル社会の構築へと結びつきます。

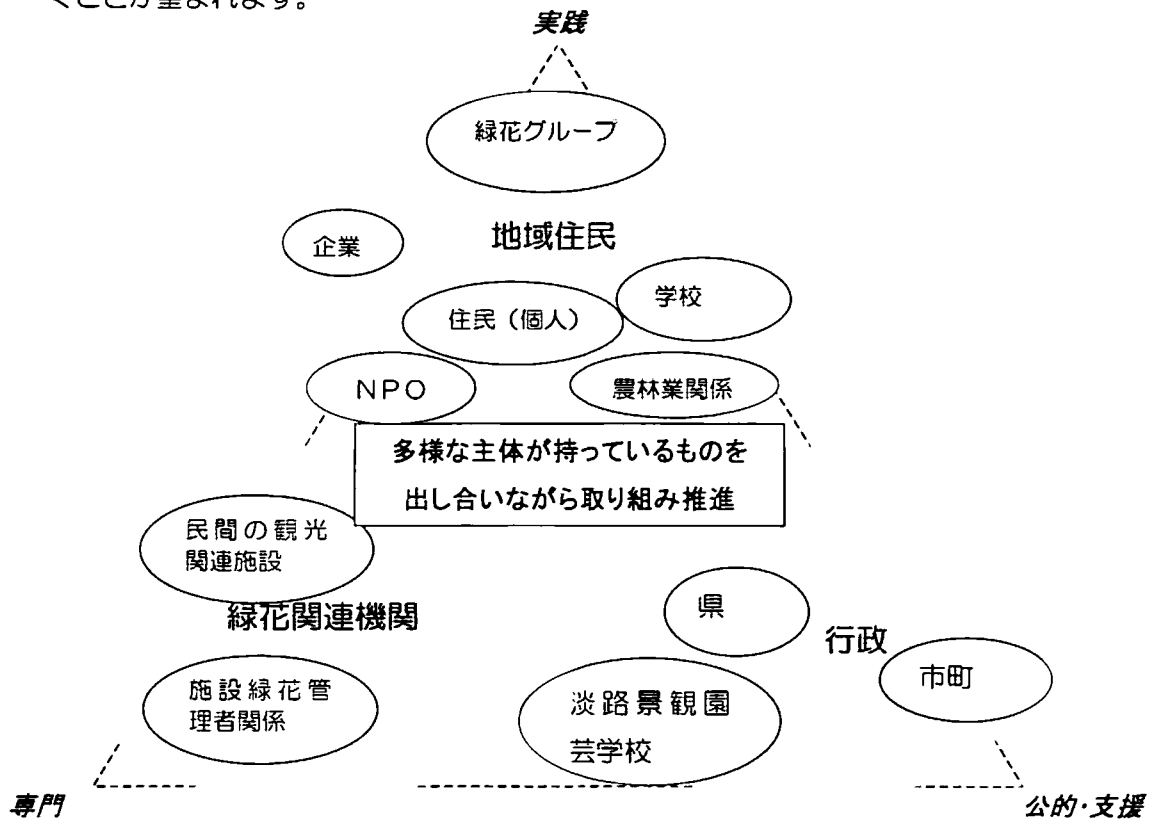
以上のようなことから、今後の淡路地域の緑花活動は、「人」と「人」、「自然」、「もの・わざ」をつなげることにより淡路らしい持続的な緑花を目指し、さらには淡路全島での「まちづくり」へと発展させていくことを基本方針とします。

■ 淡路地域での緑花に関わる主体の考え方

花回廊計画は行政・緑花関連機関が主体となり施設整備を中心に緑花を進めてきましたが、今後淡路地域では誰が主体となって緑花活動を進めるべきでしょうか。

時代の流れはハードの整備からソフトの充実へと転換しつつあります。また、地域のことは地域の住民が主体となって、行政等と参画と協働で取り組みを進めていく流れになっています。

このようなことから、今後、淡路地域での緑花活動も、緑花グループをはじめとする「地域住民」、「緑花関連機関」、「行政」の三者が適切な役割分担のもと参画と協働で進めていくことが望まれます。



○地域住民（緑花グループ、NPO、企業、個人等）の役割は・・・

- ・多様な主体が連携して地域づくりを行うという参画と協働の流れの中で、地域の活動では地域住民が主人公です。活動を行うなかで、行政には頼らない、自分達で活動を継続させることが大事です。そのための工夫や技術の向上、経済的基盤の確立、いろいろな人の関わり方を意識することが必要です。
- ・そして、緑花活動を継続した上で、緑花がもたらしてくれる癒しや、地球温暖化防止等の効果、生命の学習等を意識した活動をはじめ、まちづくりに広がっていきます。

○緑花関連機関（（財）花博記念事業協会、観光連盟など）の役割は・・・

- ・緑花関連機関は、自ら「淡路らしい緑花」を探求し、専門的な側面から淡路全島を牽引する役割を担います。
- ・また、緑花を担う専門的な機関として、緑花活動に限らず、情報の発信、イベントの実施、交流会の場づくり等を実施し、地域住民の活動の支援を進めていきましょう。

○行政（県・市町）の役割は・・・

（行政の役割）

- ・現在、県や市町の支援事業として主流になっている緑花資材の提供などは、住民の主體的活動が広がる中で、住民による活動の自主性を尊重しながら、その活動をサポートする方向へと転換していきます。
- ・活動グループが自立していく初期においては、比較的支援を必要とする団体が多いので支援を行います。将来的には徐々に自立をサポートするような支援を行うようにしましょう。
- ・全島的な取り組みなどにおいては、情報交換の場を設けるなど行政が活動のきっかけづくりをしたり、取り組みをリーディングしていく役割も必要です。

（特に、「市」の役割としては）

- ・特に、市の役割としては、地域の緑花グループがお互いに交流し、情報交換することにより、自助、共助による緑花活動が継続できるように、地域内のネットワークの形成を支援します。具体的には緑花団体の支援・育成に努めます。
- ・また、地域の緑花グループ等を緑花事業の実施等により、直接的に支援します。

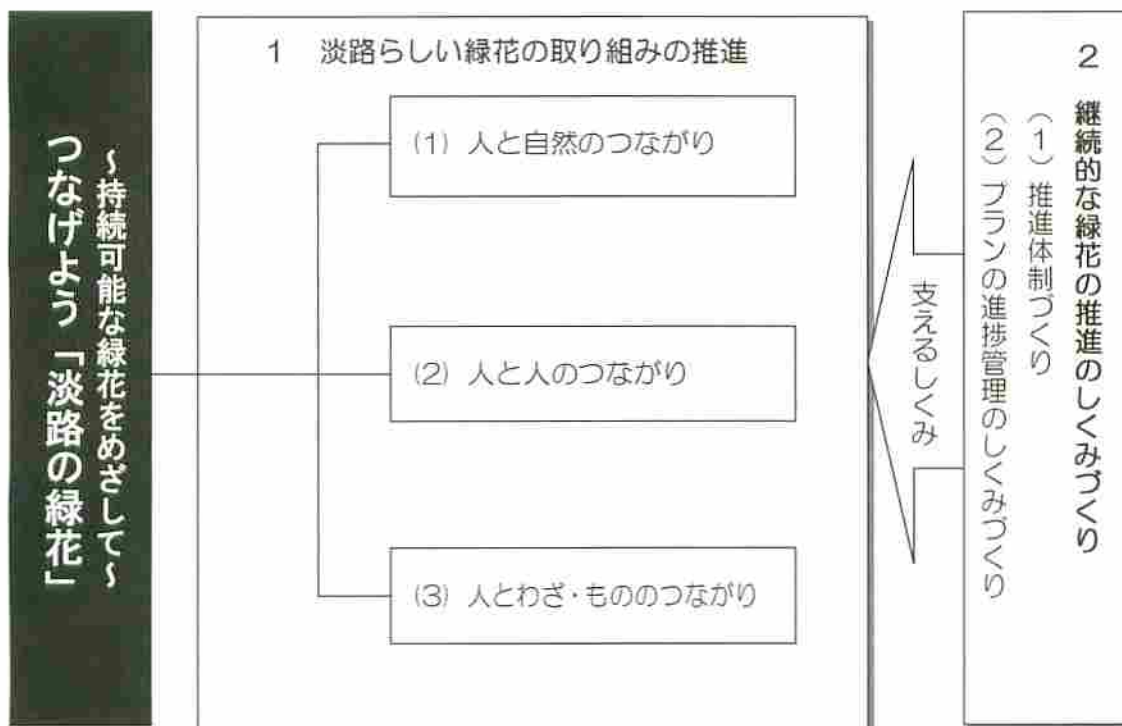
（特に、「県民局」の役割としては）

- ・特に、県民局の役割は、緑花グループや緑花団体が市域を越えて、交流し、情報交換する広域ネットワークの形成に努めます。また、島内緑花関連機関の協力を得ながら、行政と緑花関連機関、緑花関連機関相互の事業調整、協力体制の強化を図ります。
- ・市の緑花事業を補完するため、市を経由して緑花資材の配布等の必要な施策を講じます。

## 第3章 どんなことに取り組むか？

課題を解決し、目標像を実現するため、基本方針『つなげよう淡路の緑花～持続可能な緑花を目指して～』に基づき、まず「1 淡路らしい緑花の取り組みの推進」に取り組みます。また、「淡路らしい緑花の取り組みの推進」を支えるしくみとして、「2 継続的な緑花の推進のしくみづくり」に取り組みます。

なお、現在すでに取り組まれており、続けて取り組むものを【短期的取り組み】とし、以降の様々な分野への広がりへと発展させる取り組みを【中・長期的取り組み】として、緑花活動がもつ他分野への発展性を踏まえて取り組みます。



### ■あわじ総合緑花プランワークショップ

2005年6～8月に緑花団体の代表者が参加したワークショップを3回開催し、課題や今後取り組みたいことについて話し合いました。第3章は、このワークショップで出し合った様々なアイデアや提案をもとに作成しています。



ワークショップ開催の様子



## 1 淡路らしい緑花の取り組みの推進

淡路らしい緑花の取り組みを推進するため、「人と自然」「人と人」「人との・わざ」のつながりを意識して取り組みを行います。

### (1) 人と自然のつながり

これまで淡路の緑花は、一年草の草本園芸植物による色彩の豊かさを求めた花壇が多く、多大な費用や労力を要するわりに、淡路が本来もつ自然の姿と合わないため、淡路らしい風景を感じる事ができない花壇になってしまっていました。

今後は、花だけでなく花木や低木といった緑、または淡路に自生する植物などの淡路の気候風土に根ざした種類を用いることで、維持管理に関わる労力を減らすと同時に、「淡路らしい緑花風景」を醸し出していくことが必要です。

また、花や緑という「自然」とのふれあいになる緑花活動は、地域の景観を美しくするだけではなく、環境に配慮したライフスタイルや自然を愛し敬う心を育むことにつながります。

#### ① 淡路に自生する植物・地域産材を用いて手間がかからず変化のある淡路らしい花壇づくり

手間がかからず、変化のある淡路らしい花壇づくりは理想です。このためには、淡路に自生する植物や地域産材を用いた花壇づくりを進めます。気候風土に根ざした淡路に自生する植物、地域産材を用いることで、管理作業の軽減になり、さらに淡路の風景になじんだ花壇づくりが行え、質的向上にもつながります。まずは試験的かつ発信する意味を持ったモデル花壇づくりから進めます。

#### 【短期的取り組み】

##### ○ 緑と花のバランスを考えた花壇づくり

- ・多年草や花木、低木を利用し、花と緑のバランスがとれた花壇を目指します。
- ・四季折々の花が咲く木を工夫して植えることで植え替えの手間を省くことが可能です。

#### ■ 地域産材を使った花壇づくり

石や木などを適切に配置した花壇づくりを行い、維持管理の負担を軽減しています。  
(花でまちづくり協会)



石を用いた花壇づくり

### ■花と緑のバランスのとれた花壇

#### ①花と緑のバランス

・低木や宿根草の割合を増やすことで管理も楽になります。

おすすめの割合 一年草：宿根草：中低木＝3：3：4

#### ②花が年中咲いているように見せる工夫

・花と緑の配置や配列を曲線、シグザグ、幾何学模様など変化をつけます。こうすることで、前列が枯れても、後列が咲いている状態など年中花を咲かせることができます。

#### ③瓦や石なども利用

・花や緑以外に、瓦、煉瓦、石、枕木などを利用すると維持管理も楽になります。

### ○ 淡路本来の自然の姿を取り戻す淡路に自生する植物や地域産材を使ったモデル花壇づくり

・淡路の気候風土に適した淡路に自生する植物を使った花壇づくりを進めるため、今後は県立淡路景観園芸学校内に設置予定の南淡路や北淡路の地域性を考慮したモデル花壇を参考に組み込みます。また、公共の花壇等においても率先して淡路に自生する植物を取り入れていきます。

### ○ 淡路らしい花壇づくりマニュアルの作成

・花回廊計画を作成した際に、花壇づくりの具体的な指針として併せて作成した「緑花マニュアル」の普及版として、淡路に自生する植物を加えながら、淡路らしい花壇づくりを考えるパンフレット・マニュアル類を作成し、緑花グループ等が利用できるよう配布します。

### ■地域産材をつかった花壇づくり

淡路瓦など地場産材を使った花壇づくりに取り組んでいます。(あじさいグループほか)



瓦をつかった花壇づくり

### ■景観園芸に利用可能な自生植物

(花が美しい、実がなるなど園芸にも利用可能な自生植物)

#### ○木本：

モチツツジ、マルバウツギ、クロバイ、シラキ、トキワガキ、ヤブツバキ、シバハギ、サカキカズラ など

#### ○草本：

シマカンギク、ハマダイコン、ウバユリ、オオルリソウ、カリガネソウ、キツネノカミソリ、コヤブラン、シャガ、シロバナタンポポ など

#### ○ツル類：

イワガラミ、ハスノハカズラ など

(参考文献：「景観植物の栽培と利用法(兵庫県立淡路景観学校：平成14年3月)」)